



平成29年10月25日

三沢市議会
議長 小比類巻 正規 殿

三沢市議会

議員 森	三郎
議員 山本	一彌
議員 馬場	一騎
議員 船見	亮悦
議員 小比類巻	雅彦
議員 佐々木	卓也



個人研修の復命について

先に個人研修した結果について、下記のとおり復命いたします。

記

1. 期 間 平成29年10月10日（火）から10月12日（木）まで

2. 視察先

（1）島根県出雲市役所

（平成29年10月11日（水）午前9時15分～）

（2）京都府宇治市役所

（平成29年10月12日（火）午後9時20分～）

3. 視察事項

（1）島根県出雲市役所

・自治会等応援条例について

（出雲市役所総合政策部自治振興課、議会事務局から説明）

（2）京都府宇治市役所

・初期認知症総合相談支援事業について

（宇治市役所健康長寿部健康生きがい課から説明）

4. 詳細 別紙のとおり

(別紙)

◎「出雲市自治会等応援条例について」

出雲市は、少子高齢化や価値観、生活形態の多様化により自治会等への加入や自治会等の活動への参加が減少傾向にあり、自治会等への加入率は、平成17年度の76.4%が平成27年度では68.3%と減少傾向をたどる中、平成27年3月、住民相互の連帯感の一層の醸成と安心で安全な地域コミュニティの実現を目的に、議員提案による「出雲市自治会等応援条例」を制定し、この条例によりその基本理念と市や議会の責務、地域住民や自治会等及び事業者の役割を明らかにし、地域コミュニティの中心的な担い手である自治会等を応援する取り組みを行っている。

【基本理念】

- ★豊かで良好な地域コミュニティの大切さを認識し、自治会等が担う役割の重要性を理解すること。
- ★地域住民相互の協力と支え合いの精神を基調とし、住民の自主性及び自発性を尊重すること。
- ★自治会等の自立性や個性を損なわないように配慮すること。
- ★地域住民、自治会等、事業者、住宅関連事業者、議会及び市がそれぞれの役割を認識し、相互の理解と連携の下に、協働して取り組むこと。

【条例に基づく具体的な施策】

- ① 広報活動（地域づくりシンポジウム、自治会等応援条例・加入促進啓発チラシなど）
- ② 自治会への支援（元気！やる気！地域応援補助金など）
- ③ 自治会等の設立及び加入促進の取り組み（地域コミュニティづくり支援補助金、町内会活動に関する意識調査、町内会加入のススメ作成など）

《所感》

出雲市では、キーワードとして「防災」を掲げ、発災時の生存確認などをを行う自治会の役割を前面に出して加入促進に取り組んでおり、また、議員も条例に基づく事業を紹介するなど積極的に活動をしているとのことでした。

三沢市の町内会加入率は、平成13年度の73.3%が現在57.5%となっており、度重なる自然災害の経験などから人と人とのつながりや絆、地域コミュニティの重要性が再認識されている中、今後の町内会の活性化に向けて取り組んで参る所存です。

◎京都府宇治市「初期認知症総合相談支援事業について」

宇治市では認知症の予防対策に早期から取り組んでおり、積極的にモデル事業を受託し効果を検証し、その成果に基づき平成25年度からは京都府地域包括ケア総合交付金活用事業として「初期認知症総合相談支援事業」をスタートさせた。この事業は、認知症の人と家族への早期支援を実現するために、認知症コーディネーター（社会福祉士）を事業の中心として配置し、初期認知症の人の居場所づくりとして「認知症対応型カフェ」を、早期発見として「初期認知症スクリーニング訪問」を新たに実施した。

初期認知症総合相談支援事業

目的 認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症の初期の段階から適切な支援を行う。

特色 認知症が重症化する前に、早期から支援体制を構築するため認知症コーディネーターを配置し、「認知症対応型カフェ」と「認知症初期集中支援チーム」と他の認知症事業とを一体的に取り組んでいる。

① 「認知症対応型カフェ」

市内各圏域で開催。認知症の人やその家族、専門職、地域住民が気軽に参加でき、早期支援の場として実施されている。

② 「認知症初期集中支援チーム」

医療と福祉の多職種で構成されたチームが訪問、アセスメントをし、専門医のバックアップのもと短期間で集中的に支援を行っている。

課題 認知症の人の支援には周囲の正しい理解が必要であるため、関係機関との連携及び地域住民への普及啓発をより積極的に取り組むことである。

宇治市は、平成27年3月21日に全国の自治体として初めてとなる「認知症の人にやさしいまち・うじ」宣言を発表した。

認知症の人が生活者として当たり前に地域社会に登場できる社会の実現こそが「認知症の人にやさしいまち・うじ」の実現につながり、そのためには医療・福祉・介護分野だけでなく、暮らしを支える様々な企業や団体、市民全体が認知症を正しく理解し、それぞれのできることをサポートしていく仕組みが必要であり、その基盤には認知症の人と家族の声を反映させることがあることを確認し、全国でも例のない『宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど（Lemon-aid）”』を設立し、認知症の人を地域で支えるための広範囲なネットワ

ークの構築を図り、認知症の人にやさしいまちの実現に向けて積極的に取り組んでいる。

《所感》

宇治市は、先駆的な取り組みの成果を活かして平成25年度から事業を開始し、特徴的な専任の認知症コーディネーターが中心となり、医療、介護及び生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークが形成され、初期認知症の相談の場ともなる「認知症対応型カフェ」が市内6圏域で実施されるなど、認知症の人とその家族への効果的な支援体制が充実しており、更には『宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど（Lemon-aid）』を設立し、認知症の人を「生活者」としてとらえ、医療・福祉・介護といった専門的ケアの分野を超えて、生活に関わるすべての分野（商業、運輸、金融等）で認知症を正しく理解し、それぞれの立場からできることを考え行動するという認知症の人を地域で支えるための広範囲なネットワークが構築されており、これらの先進的な取り組みが、今後の三沢市の認知症の早期発見・早期対応等への支援体制構築に向け、大変参考になる内容でした。

【出雲市】





【宇治市】

